

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Tomo de coco ATELIER 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 16	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	2025/12/01	～	2025/12/13
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026/02/21		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アセスメントに基づき、お子様一人ひとりの特性や発達段階、ニーズを丁寧に把握し、個別支援計画の作成・実施を行っている。個別支援計画に基づいて個別療育・小集団療育を適切に組み合わせ、専門性の高い支援を継続的に提供できている。	毎日のミーティングを通してお子様の様子について、職員間で情報共有を行っている。共通理解を持って支援にあたることで、関わり方に一貫性を持たせ、チームで支援を行う体制を整えている。お子様が安心して取り組める関わりを大切にしながら、挑戦してみようという意欲を育む支援を意識的にしている。	職員間での情報共有を継続的に行うとともに、時間が限られている場面でも短時間で気づきを共有できる体制を整えていく。お子様が意欲的に学習や活動に参加できるよう、オリジナル教材の作成や集団活動の内容を工夫し、支援の質向上を図る。
2	生活環境が清潔に保たれ、十分な活動空間が確保されている。複数の部屋を活用し活動内容に応じた空間設定を行うことで、お子様が見通しを持って安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	安全面・衛生面に配慮し、日常的な点検や環境調整を行っているほか、毎日の清掃・消毒を徹底し、階段昇降時は支援員が付き添うなど事故防止に努めている。また、活動内容に応じて場所を分け、お子様が安心して取り組める環境を整えている。	活動内容やお子様の特性に応じて環境設定を適宜見直し、安全で活動しやすい空間づくりを進めていく。また、動線や家具配置を工夫し事故防止を図るとともに、清掃や点検体制を整え、清潔で安定した環境の維持に努めていく。
3	専門性を持つ職員が連携し、チームとして支援内容を検討している。	日々のミーティングや申し送りを通じてお子様の様子や支援状況を共有し、お子様に合ったプログラムを組み立てている。お子様同士の関係性や発達段階にも配慮し、活動内容が固定化しないよう工夫しながら職員全体で意見交換を行い、質の高い支援の提供につなげている。	引き続き職員間でアイデアを出し合いながらお子様の興味関心を引き出す活動の幅を広げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	就学前に利用していた園や児童発達支援との連携事例や、学校卒業後に障害福祉サービス事業所へ移行する事例がまだ少ない状況がある。	開所間もない施設であるため、現在は関係機関への移行支援については実施段階に至っていない。	必要に応じて関係機関と連携し、移行時におけるお子様の状況や必要な支援内容、経過情報等を共有できる体制づくりを進めていく。
2	地域行事への参加や、地域住民・他事業所との交流については、実施機会が限定的であり、「地域に開かれた事業運営」という観点では十分とは言えない状況が見られる。	交流の機会や情報が少なく、積極的な関わりに繋がりにくい状況がある。	地域行事や外部交流の情報収集を行い、地域参加型行事への参加や連携機会を少しずつ増やししながら、地域との繋がりを深めていく。
3	自立支援協議会等への積極的な参加や、スーパーバイズ・助言を受ける機会については、今後さらに充実させていく必要がある。	顧問研修等により、社内で助言や研修を受ける機会は充実しているものの、外部からのスーパーバイズや助言を受ける体制の構築には至っていない。	必要に応じて参加機会の設定や、スーパーバイズ・助言・研修を受ける機会を確保し、地域の関係機関との情報共有や支援ネットワークの構築にも繋げていく。また、職員の専門性向上および支援の質の充実を図っていく。